

検査部 初期研修プログラム

必ず習得するアウトカム

1. 超音波検査等の生理検査の基本が理解できる。
2. 細菌検査: グラム染色、培養培地の選択と集落観察、同定検査、薬剤感受性検査の結果の見方が理解できる。
3. 血液検査: 末梢血液像の異常、正常・異常骨髄像が判読できるようになる。また、骨髄像報告書が作成できる。
4. 輸血検査: 手法を用いた輸血検査と適切な輸血療法を習得する。
5. 尿検査: 尿沈査所見が理解できる。

研修目的

診療の基本となる臨床検査の各分野における理解と技術の習得を目指す。すなわち、生理検査の基本についても学ぶとともに、骨髄像を含めた血液検査、輸血検査、微生物検査、尿検査を学び、一人でこの検査と報告が出来ることを目標とする。さらに Reversed Clinico-pathological Conference (RCPC)等を通じて、診療に必須な、主に検体系検査データの見方を習得する。

研修目標

- ◇ 一般目標
今後各科で活躍する際の診療に必要な検査の基本を身につける。
- ◇ 行動目標
 1. 超音波検査: 循環器、腹部等の超音波検査の見学から開始し、可能であればその手技を学ぶ。
 2. 細菌検査: グラム染色、培養培地の選択と集落観察、同定検査、薬剤感受性検査の結果の見方、質量分析器を用いた菌種の同定が出来る。
 3. 血液検査: 末梢血液像、骨髄像の判定と報告ができる。
 4. 輸血検査: 血液型検査、交差適合試験などの輸血検査が実施、理解できる。
 5. 一般検査: 尿検査、関節液検査、体腔液検査、髄液検査が理解できる。
 6. 生化学検査: Reversed Clinico-pathological Conference (RCPC)等を通じて生化学、免疫検査を中心とした検体系検査の意義と検査データの見方を学ぶ。
- ◇ 研修期間中に経験可能な疾患・疾病、および手技
 1. 生理検査(循環器、腹部超音波)見学(100例程度)
 2. 微生物検査報告書作成の手順(50例程度)
 3. 骨髄像報告書作成(10例程度)
 4. 輸血検査(20例程度)
 5. 一般検査(尿沈査、関節液検査、体腔液検査、髄液検査)の判定(100例程度)

6. Reversed Clinico-pathological Conference (RCPC)等を通じて生化学、免疫検査を中心とした検体系検査の意義と検査データの見方を学ぶ。

研修方略

LS	方法	該当 SBOs	対象	場所	媒体	人的資源	時間	学習時期
1	実技研修	1	研修医	生理検査室	実技	臨床検査技師	3時間	月～金午前(ときに午後)
2	実技研修	2	研修医	細菌検査室	実技	臨床検査技師	4時間	火、水、金午後
3	実技研修	3	研修医	検査部	実技	指導医 臨床検査技師	2時間	月曜午後、 または木曜午後
4	実技研修	4	研修医	検査部	実技	指導医 臨床検査技師	2時間	月曜午後
5	実技研修	5	研修医	検査部	実技	臨床検査技師	1時間	月曜午後、 または木曜午後
6	SGD	6	研修医	検査部	プリント	指導医	1時間	月曜午後 など

研修評価

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
1,2,3,4,5,6	形成的	態度・知識	指導医	研修中	観察記録
1,2,3,4,5,6	形成的	実技	指導医	研修終了時	報告書

週間予定表

	午前	午後	夕方
月	生理検査室	輸血検査室、または検査部(骨髄像・尿検査・RCPCによる検査データの読み方)	
火	生理検査室	細菌検査室、または生理検査室	
水	生理検査室	細菌検査室、または生理検査室	
木	生理検査室	生理検査室、または検査部(骨髄像・尿検査)	
金	生理検査室	細菌検査室、または生理検査室	

指導責任者および指導医

指導責任者:高橋伸一郎

指導医 (臨床検査専門医) :高橋伸一郎
" (超音波専門医) :大原貴裕(兼務)
" (臨床検査専門医、輸血認定医、血液専門医) :沖津庸子(兼務)

学生(4～6年生)や他科研修中研修医のカンファレンスの参加の可否

参加可 (若干名のみ)・参加不可

研修医発表会、学会発表に対する指導体制

指導医が協力して発表の指導を行う。

同時期に受け入れ可能研修医数(1クール:3ヶ月)

0-1名/1クール

1回の研修期間を1-1.5ヶ月程度と考えています。

(但し年度初めの新人技師トレーニング期間 [4月～6月] には受け入れを制限する場合があります。)

初期研修医 臨床検査部研修目標

東北医科薬科大学病院において、臨床検査部の初期研修医に対する教育研修は、配属された全初期研修医に対する、2ヶ月間の「地域高齢者医療研修」の中で、毎週1日を使って行われている（全8回程度）。内容として超音波検査、細菌検査、輸血検査、血液、尿一般検査等の実際を体験し、検査医及び検査部の業務内容を理解することを目的としている。

それに加えて本「臨床検査部初期研修プログラム」を主体的に選択し、限られた初期研修期間の中で1-2ヶ月程度の臨床検査部における研修を希望する研修医は、将来、臨床検査専門医取得を視野に入れ、積極的に本プログラムを活用する方であることを期待する。研修終了時に下記の目標の達成度を確認し、研修の振り返りを行う。

臨床検査部で研修する

1 技術

- 1) 心電図、超音波検査等生理検査の基本技術が行える
- 2) 細菌検査（グラム染色、同定検査等）が行える
- 3) 末梢血液像の異常、正常が判読できるようになる
- 4) 異常骨髓像が判読できるようになる
- 5) 血液型検査、交差試験が行える
- 6) 臨床検査の報告書（病的尿沈渣、病的末梢血液像、骨髓像、感染症法対象病原体検出、多剤耐性菌検出、不規則抗体検出、免疫電気泳動、超音波診断など）を作成できる

2 知識

- 1) 検査データの見方を学べる
- 2) 適切な輸血療法が理解できる
- 3) 細菌検査における薬剤感受性結果の見方が理解できる
- 4) 尿沈渣所見が理解できる
- 5) 検査部における生理系～検体系の検査機器の種類、目的が理解できる
- 6) 国際規格 ISO15189 に則った検査室運営が理解できる

臨床検査部で経験する…

- 1) Reversed Clinico-pathological Conference (RCPC)の症例提示(希望があれば)
- 2) 英文論文の抄読会 1回
- 3) 基礎研究（白血病の病態・治療法に関する研究、超音波検査の測定法に関する基礎検討、微生物検査に関する研究等）に参与することができる(希望があれば)